

# 広報 おおづ

# 3

MARCH 2024

みんなで  
野球しよう!



## 大谷選手のグローブが届いたよ!

詳しくは10ページ参照 >>>

### clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人

毎年、大津東小学校の児童は学習発表で大林牛舞いを披露するために練習をしています。その時、宮崎さんが児童に牛舞いの指導をしています。左の写真は、12年前に篠笛の吹き方を教える宮崎さんです。



blic relations  
OZU TOWN

広報 おおづ 2024 3



発行・編集 大津市 総合政策課  
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>



印刷 印刷 印刷株式会社  
※ 広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物性インクを使用しています。

UD  
FONT  
見やすくて読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



みやざき まる  
宮崎 衛さん(大林)

## 「日々感謝」 それが一番 大事。

大津町無形民俗文化財指定の「大林牛舞い」や大林区の宝満神社など、地域の宝を守り続ける宮崎衛さん。地域のために動く原動力にクローズアップする。

宮崎家の四男に生まれ、自分の自動車整備工場を持ちたいと15歳で大阪に修行に行く宮崎さん。技術を習得するためにひたすら仕事に励んだ。働いている時、上司に言われたことで今でも大切にしていることがあるという。それは、「あいさつは人の基本。大きな声であいさつをしないさい」。人とつながる最初のあいさつを大切にしている宮崎さんだからこそ、仕事や地域で頼られる存在へとつながる。

21歳の時に帰郷し、町内の整備工場へ働き、約5年後に宮崎さんの整備工場を持つという夢を叶えた。工場ができてからは毎日のように働き、仕事以外に目を向けられるようになったのは40歳頃だった。「大阪にいた頃は、大林区の祭りや牛舞いが忘れられませんでした。外に出たからこそ故郷の大切さに気づいたんです」と仕事に余裕ができ、地域を盛り上げたいと大林区のためにできることを始める。

昭和30年から20年間も途絶えていた大林牛舞い。地域の協力を得て復活させた。一度途絶えた伝統を復活させるのは簡単なことではなかった。牛舞いを知る人は高齢化し、牛舞いの練習に参加する人も最初は少なかった。それでも活動費を集めたり、地域の人たちに声を掛け続けたりと宮崎さんの熱い想いは地域の人たちに伝わっていた。

「一人では地域の宝は守れません。みんなが協力してくれるからできることです」と宮崎さんは関わる人への感謝を大切にしている。

こゝの声

クローズアップ大津人の宮崎さんとは取材で初めてお会いしました。取材中たまたま見せてもらった宮崎さんが出席した友人の親族の結婚式の写真。写真をよく見るとなんと5歳くらい私が映っていました。実はお会いしたことがあって、世間の狭さを感じ驚いたところでした。感謝の気持ちを持つこと、あいさつをすること、当たり前のことですが自分から返ってくる。当たり前前のご心遣いを感じることが大事です。▼今年度の広報おおづも今月号で最後。1年が早いですが、3月は仕事の整理でより時間の早さを感じますが、忙しいときこそ深呼吸が大事ですね(末永)



広報が読める  
スマホアプリ  
マチイロ